

飯南

い
い
な
ん

議 会 報

- 02 年頭のごあいさつ
- 03 12月定例会報告
可決された主な議案
請願 陳情 一般会計補正予算
- 04 一般質問
- 10 行政視察報告
- 12 決算審査特別委員会報告
- 13 討論 採決の結果
- 14 常任委員会報告 議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 16 明日を拓く

第48号
平成29年1月20日



年頭のごあいさつ

飯南町議会議長 小野 覺



明けましておめでとうございます。町民の皆様には健やかに、新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。日頃より、町議会にお寄せいただいておりますご理解とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

昨年は、懸案であった新庁舎の竣工、また第2次飯南町総合振興計画が策定され、新たなステップへスタートした1年でした。その中で、人口確保対策は子育て環境、仕事環境を整えることにより、人口減少に歯止めをかけ、平成37年では国の推計値より高い4590人を目標としています。

地方公共団体の役割や責任が拡大する中において、議会が果たすべき役割や責務は増大しています。これに因應するため、議会の機能強化や改革に取り組むべく、最高規範となる「飯南町議会基本条例」の策定を進めています。

議会は二元代表制の一方を担う責任の重さを自覚し、議員一丸となって、負託に応えるよう全力で取り組みます。ご支援とご指導頂きますようよろしくお願いたします。

皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

平成28年 12月定例会 終わる

12月6日から16日までの
11日間で開催

本定例会では陳情と請願が各1件審議された。

総務厚生常任委員会では「町有の危険家屋撤去と町有地の有効活用のお願い」という陳情に、現地を踏査し、空き家の状況を確認した上で、早急に対応するよう求めた。

教育経済常任委員会では「畜産振興に伴うたい肥センター整備に関する請願」が9月定例会に提出され継続審議となっている。10月27日に県内のたい肥センターを視察した。本町の施設の管理方法に課題があるかと判断している。

管理計画等の提示が必要だが、示されていないため、引き続き継続審議とした。
酪農家や畜産農家などの経営に支障をきたさぬよう、適切な対応が求められる。

可決された主な議案

■ 認定

平成27年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■ 条例関係

飯南町職員の勤務時間、休暇等に関する条例改正など5件

■ 補正予算

平成28年度飯南町一般会計補正予算(第5号)など6件

■ 諸議案

H28飯南町立赤名小学校校舎大規模改修工事請負契約の締結など4件

■ 議員発議

地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書

■ 請願

飯南町畜産振興に伴う堆肥センター整備に関する請願

■ 陳情

町有の危険家屋撤去(改修)と町有地の有効活用を求める陳情

■ 審査結果

「付託委員会」 継続審査

■ 採択

「審査結果」 未利用町有地の活用方法については、慎重に対応されたい。

■ 採択

「審査結果」 未利用町有地の活用方法については、慎重に対応されたい。

■ 採択

「審査結果」 未利用町有地の活用方法については、慎重に対応されたい。

■ 採択

「審査結果」 未利用町有地の活用方法については、慎重に対応されたい。

■ 採択

「審査結果」 未利用町有地の活用方法については、慎重に対応されたい。

■ 採択

「審査結果」 未利用町有地の活用方法については、慎重に対応されたい。

【平成28年度 一般会計補正予算 9436万円増額】

町債繰上げ償還金・赤名保育乳児室改修費など

各会計	補正予算額	予算総額	
一般会計	9436万円	83億7890万円	
特別会計	国民健康保険事業	250万円	7億1282万円
	簡易水道事業	1億1966万円	6億2262万円
	下水道事業	14万円	4億8802万円
	介護保険サービス事業	13万円	2929万円
	病院事業会計	200万円	11億8634万円

一般質問

12月定例会



内藤 眞一議員

Q道の駅頓原 周辺整備を

道の駅頓原周辺の店舗では、自動車専用道路尾道松江線開通による売り上げの減少が続いており、関係者で道の駅頓原連絡協議会等を組織し、町内外からの集客を図る計画を立てている。

A森林セラピー 基地として

町長山崎英樹
緑地公園の遊歩道は、審査基準にそって現地確認したが、セラピーロードとしてはアップダウンが厳しすぎるという指摘がある。むしろ、町全体が森林セラピー基地であるという中で、関係者と連携して利用したい。

本町の約90%を占める森林資源を活用する目的で、今後の方向性としては、町民・国民の健康づくり、セラピー体験者の活動による経済効果を求めていく。



頓原緑地公園

そのための体制を強化し、推進方法を明確にすることで、町民の誇りとなる、町民が主役の森林セラピー事業として推進したい。

Q民族資料館の 移転整備を

今後の道の駅頓原周辺施設への集客を考えたとき、緑地公園整備の中に民族資料館の移転整備を検討してはどうか。

A検討事項と したい

町長山崎英樹
この施設は、本町の民族資料を保存管理し、一般に公開することを目的に設置している。

現在の立地は、道路改良工事の予定もあり、立地環境が変化するので、移転は一つの考え方だ。

A他の施設と セットで検討

教育長 安部 巨

本町の民俗資料館は、昭和45年に建設され、貴重な民具を展示、保存、管理している。他に、町史編さん資料、八神文化財収蔵施設等がある。

町の財産として、セットで観光振興にも繋がる保存管理の方法を検討したい。



民俗資料館



一般質問

12月定例会



伊藤 好晴 議員

Q琴引山系乱開発 と再発防止

飯南トータルサポートが他人の山林に無断で立ち入り、開発を行った。現地では表土がはがれていたり、土が流出したりしており、土砂崩れの可能性も否定できない。保安林の指定がある山林は、一定の基準がないと歯止めがきかなくなる。

土砂崩れの防止が必要と思う。放置されると、人命に関わったり、財産の滅失にも繋がる。農作物の品質・収穫量への影響も予測される。どのような措置を取るのか。費用は誰が負担するのか。

保安林の無届け・無許可での伐採には罰金刑もある。地権者との会合で、「法律違反はしていない、罰則も当たらない」という説明をしているが、謙虚さが足りない。法的な面での今回の対応は不十分ではないか。告発などは当事者に対する制裁として大きな意味がある。

集客につながっても地域に不利益が生じてはならないし、許されない。公の施設の想定

A熟知するよう 指導する

町長 山崎 英樹

言語道断、あるまじき行為である。関係法令、施設の設置管理条例などを熟知するよう指導する。適切な公の施設の運営、指定管理制度を有効に活用していく。

以外の事業導入には、許可制など規制が必要と思うがどうか。



タイヤ痕の残る山林

A認識できるよう 対応していく

産業振興課長 大谷 哲也

保安林は町の責任下で、再発防止に努めるよう県から指導を受けた。保安林は、面的に伐採する場合には届出が必要である。

溝は修復させたが「濁り水」に関して配慮が必要。下流の砂防ダムについて協議し対応する。

町の認識不足は間違いない。教訓を生かしていく。

Q飯南病院の 今後は

島根県地域医療構想は、県内のベッド数を2200床削減するものである。医師会は対応できないとしている。保険医協会のアンケートでも、病床削減や早期退院の促進について、反対の声が大きい。『入院から在宅』へという国の方針を先生方は理解されていない。全く現実を直視しない、机上での推測に基づくも

A他の施設と セットで検討

町長 山崎 英樹

法律に基づいて策定されたもので、本町の医療、地域包括ケアシステムの構築に資すると考えている。

「医療と教育のないところに定住は無い」と思う。地域包括ケアシステムの構築は、本町の町づくりである。中山間地域の医療の重要性を、町内外に強く示していく。

※その他、就学援助の入学準備金増額を求める質問があり、貴重な提案として受けとめるという回答があった。

一般質問

12月定例会



門 眞一郎 議員

Q 晴雲、赤名トンネル整備を

国道54号は本町にとって、重要な生命線の一つである。トンネルの前後に急こう配があるため、年に数回通行不能になる。この時に町民の身に重大な問題が発生したとすれば、人命が危険にさらされる。

自動車専用道路尾道松江線の4車線化を要望する声がかまっている中で、早急に国道54号の2つのトンネル整備を検討のテーブルへのせるべきだ。



晴雲トンネル

A 国道54号の重要性を訴えていく

町長 山崎英樹

国道54号は、尾道松江線が開通して以来、厳しい状況にある。

晴雲、赤名の両トンネル改修はこれまででも機会あるたびに再三要望しているが、国の考えは、費用に対して効果が薄いとされている。

改修の要望と並行して、50年以上経過するトンネル老朽化対策や、サイクリングロード指定路線として自転車誘導灯など、全ての利用者が安らく、「安全」の確保について要望を重ねている。

中山間地域としての費用対効果、数値、考え方、項目を示し、国へ提案していく。

Q 人材育成は幼児期から

三歳から育つまでは小学校で学ぶための基礎を築きつつ、さらに脳の受容する習慣(様々な知識を受け入れる)を育てることが大切だ。

「三つ子の魂百まで」という格言があるが、出生少し前から二歳半くらいまでの発達過程に十分な愛情とともに忍耐力を制御することを体得すれば、キレにくい子供になるともいわれている。

三歳から育つまで、豊かな人間性を育てる新たなカリキュラムを加え、幼児教育にさらに力を入れるべきと考えるがどうか。

A 幼児期教育の充実を図る

町長 山崎英樹

保育所での早期教育は、勉強よりも生活面の基礎づくりが小学校入学後の学力向上に繋がると考え、一人で日常生活ができるよう、また遊びなど多様な経験を通して心と体の基礎や学習能力が培われていくように保育を行なっている。

ICT教育でプレゼンテーション能力を養うよう計画しており、保小中高一貫教育の中で、小学校と連携を進める。さらに幼児期教育の研究や提案を受け、保育体制の確立を図っていく。



保育所

一般質問

12月定例会



高橋 英次 議員

Q 来島保健センターの整備を

来島保健センターのトレーニングルームには、数種類のトレーニング機器が設置されており、老若男女問わず、日々、健康維持・体力増強・美容に励んでいるが、エアロバイク1台と、筋肉トレーニング用器具が故障している。

当施設には月2回指導員が来て、個別にトレーニングメニューを作って指導しているが、器具が少ないため、順番を待ちながら行うという状況である。

また、この保健センター自体が雨漏りのため、二階天井が一部破損し、漏電、崩落も危惧されている。

今後のトレーニング機器の更新・増設を含めた、活用・運営、さらに保健センターの雨漏りの対処を問う。

A 活用は意見を聞きながら

町長 山崎英樹

元気で健康的な生活は、本町のまちづくりの大きな柱の一つであり、高齢者を中心に「長生き体操」を取り組んでいる。壮年期、青年期の女性、男性にとつては、トレーニングルームの活用は重要である。

故障したマシンは、安全性を含めて修理の手配をしている。増設は、部屋の広さに制限があり難しい。

保健センターの雨漏りは、屋根の構造上、一部分の修理では効果がないとの業者の指摘がある。センターの活用は、色々な視点で意見を聞きながら考える。



保健センターのトレーニングルーム

Q 改正年金法に 対する対応は

年金法が改正された。これにより、年金受給に必要な資格期間が25年から10年に短縮され、全国で約64万人が受給の見込みだ。

年金は請求主義で、未申請、正規の受給額を受け取っていないなど、不利益が生じている状況も考えられる。本町として新たな受給者、不利益な立場にある人に対し対応すべきでないか。

A 町広報誌などで周知

町長 山崎英樹

年金は老後の生活を営む上で大きな糧であり、不利益が生じてはならない。

日本年金機構は来年2月以降、受給対象者に必要な書類を送付予定である。

町広報誌などで、改正制度の内容や年金相談会の周知をしたい。必要と判断すれば出張年金相談会を実施するよう要望する。

一般質問

12月定例会



長島 正一 議員

Q 鳥獣害の現状と対策は

野生鳥獣被害が深刻になる中、6千万円余の予算投入により、防護柵設置や鳥獣被害対策実施隊への年間捕獲が認められ、捕獲頭数は大幅増と聞く。

対策には、捕獲・解体・加工販売の総合対策が重要だが、今後どう取り組むのか。

A 対策協議会の充実で

町長 山崎 英樹

捕獲頭数は、猟友会の協力により大幅増となっている(猪418頭・鹿37頭)。

33地区で防護柵、箱わな等の設置を行った。今後も継続する。

防護柵の効果を発揮させるには、住民を巻き込んだ取り組みが重要だ。

鳥獣害対策協議会を機能させ、被害対策を進めていく。

Q 野生鳥獣肉の活用を

ジビエ(野生鳥獣肉)は、古くから農山村の貴重なタンパク源として発達した食文化である。国はジビエによる地域活性化を推進し、全国でブームとなっている。

住民からは地域資源としての活用を望む声がある。まずは、地元飲食店等での活用が必要ではないか。



地域資源として活用できるか?

A 名物料理としての定着を

町長 山崎 英樹

ふるさと納税の返礼品として牡丹鍋セットは好評(年間236件)である。

本町の名物料理として定着を図るため、異業種連携が大切と考える。

加工品評会等により、伝統料理の発掘や人材の掘り起こしを考えていく。

Q 町政の基本姿勢を問う

国は医療・介護等、社会保障費削減を検討している。

平成30年には、3つの改革(農業改革、介護保険制度改正、報酬改定、国民健康保険制度)が計画されている。一方、世界的には市場原理社会が変化し、「豊かさ」から「幸せ」への転換期を迎えようとしている。

今こそ田舎の良さを取り戻すチャンスだと思ふ。町長の基本姿勢を問う。

A 皆が幸せな飯南町を

町長 山崎 英樹

政策の柱は次のとおりである。3つの守りとして、「医療・福祉施設」「町内企業・事業所」「集落・地域」を守る。3つの攻めとして、「産業振興・モノづくり」、「教育振興・人材育成」、「定住・人材誘致」の推進を図る。

基本姿勢は、住民一人ひとりに目を向け、みんなが元気で幸せを感じるまちをつくることである。

一般質問

12月定例会



永井 章 議員

Q 土木予算確保を

本町では道路改良事業、通学路整備事業、橋梁長寿命化事業は、国の社会資本整備総合交付金によって事業が実施されている。平成28年度は交付金が要望額より下回った。平成29年度の交付金増額への努力を望むが、町長の決意はどうか。

A 予算確保に全力で

町長 山崎 英樹

社会資本整備交付金は、近年減少している。本年の建設改良予算額はピークであった平成25年とほぼ同額の予算が確保できた。この交付金は頓原、町区の周辺整備の財源に充てるものだ。

住民生活を守るための生活基盤の整備にかかる公共事業については、町民の生活に影響が出ないよう、予算確保に全力で取り組む。



再開発が待たれる旧頓原庁舎付近

Q 断層の本町への影響は

これまで三瓶山南東部で断層の確認はされていなかったが、昨年4月に調査が開始され、地表の岩石観察の結果、幅1センチ未満の発達過程の断層が約100本発見され、三次付近まで広がっている可能性があると発表された。島根大学の向吉秀樹助教は「活断層の存在が明確でなくても、大きな地震がおこる恐れがあり備えて欲しい」と指摘している。

本町への影響を含め、喫緊の課題として検討が必要ではないか。町長の考えを問う。

A 地域防災計画で対応

町長 山崎 英樹

島根大学の向吉助教が本町に関する新たな断層を確認された。この断層に関して島根県ではさらなる調査が進み、知見が認められれば、地域防災計画の被害想定に加えるが、現時点では特段の取り扱いが行われない。

本町も特段の扱いをせず、飯南町地域防災計画で対応する。



町議会活性化先進地の研修に 佐賀県・長崎県の2町を訪問 友好都市交流の長崎県大村市とも未来に向けた 意見交換を実施

昨年の11月24日〜26日にわたり、議会活性化の先進地を視察研修し、魅力ある議会運営を創出すべく、全議員研修として臨んだ。その一端を紹介する。

佐賀県江北町

〔視察目的〕

議会活性化と空き家利用の実態を視察

〔議会活性化〕

江北町は平成25年3月、議会基本条例を制定し、同年4月施行されており、政策立案、行政の監視、情報公開で分かりやすい議会をつくるなど、責任ある議会活動を目指されている。

ここでは情報公開と住民参加を重視し、町民と意見交換、議会報告会の開催などを、町内35地区や区長会で実施されている。

一般質問では、執行部から議員へ反問することができると規定している。このことよって制定後、議員の緊張感が強くなったそうだ。

〔空き家利用〕

上小田地区では、小田宿・空き家再生プロジェクトを立ち上げて、まちづくりに取り組んでおられる。かつて炭鉱で栄えた、この地区は、閉山後に、急激な人口減が進み、空き家が増加している。

高齢者支援に空き店舗を再生し、「お茶のみサロン」を開設、空き家を再生して児童クラブや高校生キーキカフェなどを実施しておられるとのこと。

「お茶のみサロン」は、空き店舗を改修し、人口減少により地域コミュニ

二ティが希薄になる中で、高齢者が気軽に集まる場所を提供されている。

江北町の空き家活用の特長は、住むことより地域の人が集うことを重視して行われている。

長崎県長与町

〔視察目的〕

議会活性化委員会等、議会の活性化に係る議会組織の設置等の実情視察

議会主催の住民懇談会や議会報告会の実施、また地方自治法で定

も議会基本条例に町長の「質問権」を取り入れる考えで、検討を進めている。

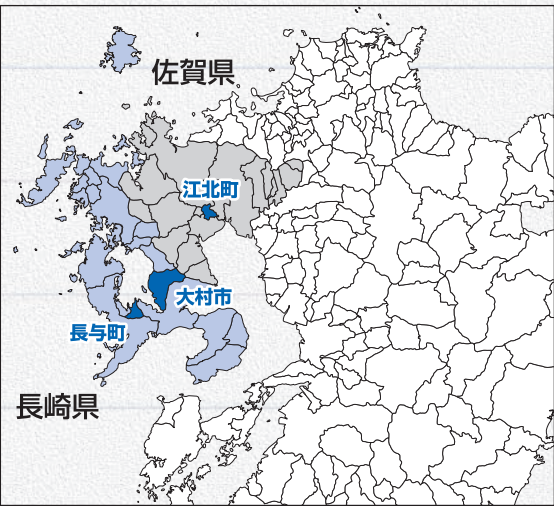
両町の議会が町民の意見・考えを積極的に求めようとする姿勢に感銘を受けた。

長崎県大村市

〔訪問〕

平成27年8月3日、長崎県大村市と本町の間で、友好交流都市協定が締結された。両市町の有意義な交流が進むよう、大村市議会と意見交換会の機会を設けた。

大村市議会議員との意見交換会



長与町役場の議場にて



江北町役場で説明を受ける



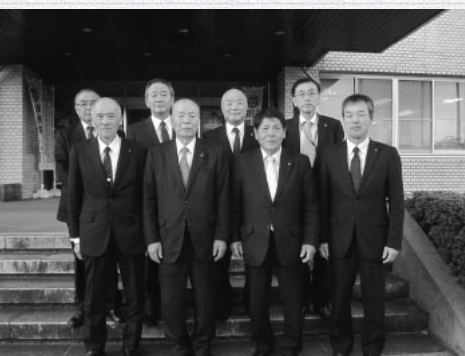
島原市：雲仙普賢岳噴火による土石流被災家屋保存公園を視察



琴平スカイパークから企業団地を見る



大村市 琴平スカイパークから大村湾を望む(手前側が企業団地)



大村市議会庁舎前にて

には、園田市長、商工観光部長、観光振興課長が同席され、今後の両市町の交流に向け意義ある意見を交わすことができた。
昨年度から、大村市の子供たちが飯南町へ来て、雪遊び、しめ縄体験などを行うツアーが実施されている。大変好評で、今年1月のツアーは抽選で参加者を決めるほど応募者が多いそうだ。大村市は、次回は飯南町を受け入れるツアーを計画をしているとのこと。
両市町にとって、有意義な交流が展開されることを願う。

討論

平成27年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

反対討論 伊藤 好晴 議員

一般会計

指定管理者に任せている事業業務内容を精査し、業務の縮小・撤退も含め再検討すべき。

平成27年度に交付された指定管理料は、1億4000万円余に上る。このまま指定管理料が増え続ければ、住民の命と暮らしを守ることに大きく支障を与えることにもなりかねない。

指定管理による運営が図られている施設は、運営の内容を日常的に把握して、町民の理解が得られるよう努力することが求められている。

学習支援館

県内の各自治体でも、公営塾が導入されているが、学習支援館事業が始まって、5年が経過した。

審査の対象

- ・平成27年度飯南町一般会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成27年度飯南町国民健康保険事業外4件の特別会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成27年度飯南病院事業会計歳入歳出決算書及び関係書類

審査意見

財政指標は、経常収支比率は88・0％と前年対比3・4％の減。実質公債費比率は11・0％、将来負担比率55・1％と、前年より改善し、いずれも早期健全化基準を下回っている。

未収金

一般会計の未収金は5426万円の前年度に比べ698万円減少し、特別会計でも461万円減少している。

徴税専門員を配置するなど滞納対策が強化され、一定の成果が認められる、今後も公平性の確保に努められたい。

町有財産

町有財産の処分は、安易な廃棄でなく希望者への譲渡など有

効活用すべきである。

交流物産館

収支の状況から厳しい運営状態にある。当初の目的達成に向け努力を求める。

子ども育て支援事業

ファミリーサポート事業のために来島保健センターが整備された。他の使用目的の利用者があるなかで活動に不都合が生じている。使用方法については条例改正を含めて検討されたい。

大注連縄創作館臨時管理費

玄関しめ縄上薦取り替えは、通常の取引価格で措置してあるが、実費のみで執行されるべきである。

緑の分権改革推進事業

道の駅にある中速充電器2台分の維持経費が、139万円となつている。利用収入は8240円と非効率であり、施設のあり方を検討されたい。

集落支援員活動事業

支援員が配置されていない地域があり、不公平感がある。人材の確保を図り、定められた任務に従い、地域の要望に沿った活

受講していない生徒への対策が不十分で、学力の向上を唱えても実現しない。どうすれば受講したい気持ちになるのかきちんと把握し、対策を打つべきだ。

義務教育の子どもたちを対象にしているから中学生全員が受講するよう努力を求める。

繰上償還

平成27年度は元金及び利子を合計し、14億7000万円あまりが支出されている。

繰上償還の場合には、利息相当分の補償金も必要になり、財政的にはリスクがある。緊急を要する案件を解決した上で、繰上償還を検討すべきだ。

賛成討論

熊谷 兼樹 議員

一部の事業、施策について、費用対効果や実施状況、指定管理者制度の問題など課題がある点をもって、全体を否定する姿勢には同調できない。

指定管理者制度は、委員会の中で、特段の課題の指摘はなかつ

た。

指定管理者制度が導入された経緯を考えたとき、必要性はあると考えるが、今後、精査していかなければならない。

財政運営は、平成18年度実質公債比率が25％を超える非常事態だったが、27年度末に11・0％まで引き下げた努力は評価に値する。

今後、地方交付税の減額等、歳入の減少が予測される。更なる健全な財政運営に努め、適切に次世代に繋がる活性化策が打ち出せる環境を堅持すべきだ。



動ができるよう努力を求める。

飯南病院

これまで3年間赤字決算が続く状況であったが、病床利用率の向上や、職員、病院スタッフの努力により、経常利益4100万円余の黒字となった。今後も町民からの信頼を損なわないよう、更なる経営努力を求める。



大万木山から頼原を望む

全16議案のうち、反対があった議案の採決結果は次のとおりです。

【12月定例会】

件名	結果	高橋英次	早樋徹雄	内藤眞一	熊谷兼樹	門眞一郎	長島正一	永井章	伊藤好晴	難波俊司	
平成27年度飯南町各会計歳入歳出決算認定	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	
その他15議案	認定	全会一致で可決									

○賛成 ●反対

第6回臨時会(11月10日開催)

平成28年度飯南町一般会計補正予算(第4号)	全会一致で可決
------------------------	---------

教育経済 常任委員会

委員長 長島 正一



堆肥センター(安来市)の視察

一般会計補正予算

農業法人を支援する

畜産臨時管理費 181万円(全額県補助金)

がんばる島根農林総合整備事業で、下来島地内の農業法人へ四輪駆動ショベル導入を支援する。

頓原公民館の備品購入 410万円

工事費予算を減額し、施設費を追加する。工事への影響を懸念する質疑があったが、影響ない旨の答弁があった。

農業基盤整備の促進を図る

農業基盤整備事業費 1,001万円

遅れていた水田の基盤整備を進める。現在施工しているものに加え、口小田、花栗工区を追加する。

住民の安全確保を図る

公共土木施設災害普及費 200万円

9月の国の査定時に認められなかった舗装復旧延長やガードレールを町費で設置する。

請願審査

審査結果 継続審査

理由:株式会社奥出雲町仁多堆肥センターやJ A島根安来堆肥センターを視察。

どちらも管理体制(5~6人)が構築され、良質堆肥製造や販売等に経営努力が行われている。また、地域農業にとって重要な役割を果たしている。

こうした事から、この請願に対する結論を出すためには、J A雲南地区本部の製造・販売に関する基本的考えを聞く必要があり、継続審査とした。

公の施設(飯南町農産物加工施設)の 指定管理者の指定

農産物加工会社「miel」設立準備会を指定管理者として指定。

- ・代表者 安部大翼氏
- ・指定管理料222万円
- ・業務内容

パン加工を核に本町の野菜等の資源を活用して、農産物加工を行い、六次産業化等を推進することが期待されている。

主な販売先は、町内産直市等。
行政が十分なサポートをするよう意見した。

簡易水道事業補正予算

早期の完成を

施設整備費 1億1,940万円(財源変更)

佐見地区の水道整備事業。国の2次補正による財源変更で、中山間総合整備事業から中山間地域所得向上支援事業に変更し事業を行う。

早期の完成を求めた。

その他

飯南町交流物産館しまね i(あい)まるシェ

年間販売金額が約3,000万円と、厳しい状況が続いており、生産振興と共にイベント企画等の販売促進を促した。

マネージャーを置き、イベントの開催等の企画を行っているとの答弁があった。

総務厚生 常任委員会

委員長 早樋 徹雄



町有地の視察

一般会計補正予算

〈歳入〉

寄付金を有意義に

指定寄付金 250万円

寄付金300万円のうち、250万円が予算化され、児童福祉施設の保育環境改善50万円と病院事業の無停電電源施設200万円にあてる。

〈歳出〉

保育環境の改善を図る

児童福祉施設費 401万円

赤名保育所乳児室トイレ・手洗い場の改修工事費で、乳幼児の保育環境改善を図るものである。

施設が老朽化しており、今後のあり方を検討するよう求めた。



〈歳出〉

こどもの健全な成長のために

母子父子福祉費 526万円

こども医療費の増加にともなう増額予算である。財源は、過疎地域自立促進特別事業債をあてる予定との報告があった。

簡易バス待合所を設置

地域交通対策費 134万円

赤名バス停(旧さんのお前)に簡易バス待合所を設置する事業費である。積雪を考慮した施設とするよう求めた。

繰上償還に計上

元金、利子 4,500万円

4,500万円余の繰上償還予算が計上されている。これにより、平成28年度末の実質公債費比率は10.7%の見込みである。

健全化への努力の一方で、地域発展のための事業へ投資を求めた。

議会活動報告 [10月~12月]

10

3日 議会広報編集委員会:紙面校正
議会運営委員会

6日 決算審査特別委員会

7日 議会広報編集委員会:紙面校正

11日 島根県町村議会議長会全議員研修会(松江市)

12日 雲南市・飯南町事務組合議会定例会(雲南市)

14日 議会全員協議会

決算審査特別委員会

17日 決算審査特別委員会

22日 島根県種畜共進会(教育経済常任委員会)

24日 決算審査特別委員会

20日 議会広報全国研修会(熊谷議員派遣)

27日 奥出雲、安来堆肥センター視察(教育経済常任委員会)

14日 決算審査特別委員会

15日 町内4保育所視察(総務厚生常任委員会)

17日 島根県町村議会議長会正副議長正副委員長研修会(松江市)

21日 決算審査特別委員会

24~26日 佐賀県江北町視察(全議員)

長崎県大村市・長崎県長与町視察(全議員)

熊本県西原村視察(全議員)

28日 議会全員協議会

12

2日 議会運営委員会:12月定例会の提出議案、日程外の協議

6日 12月定例議会:本会議、町長提出議案の説明、質疑、委員会付託

9日 :本会議、一般質問

12日 :委員会審査

13日 :委員会審査

14日 :委員会審査

15日 :委員会審査、予算特別委員会審査

16日 12月定例議会:本会議、委員長報告(質疑)、討論、採決、議会全員協議会

20日 議会広報編集委員会:一般質問要約作業

26日 議会広報編集委員会:編集作業

議会全員協議会の議題

10月14日

①琴引マウンテンエンデューロ開催にかかる立木伐採の経過報告

11月10日

①赤名小学校の大規模改修工事の説明

②J E Tプログラム動画コンテスト入賞の報告

11月28日

①飯南町総合交流ターミナル等の指定管理の説明

12月16日

①飯南町長選挙日程等の説明

②空き家調査の実施説明

③雪下ろし業者等の説明

④旧庁舎等事務用机処分の説明

⑤株式会社フロンティアあかぎの精算終了の報告

⑥民生児童委員の選任報告

⑦飯南町総合交流ターミナルの指定管理の説明

⑧飯南町立飯南病院改革プラン(案)の説明

飯南DNAを守っていききたい

県立飯南高等学校 校長 吉田 彰二さん

当校の生徒数維持、魅力化、学力の向上をどのように進めていく考えか

生徒数の確保は小中学校の生徒数などを元にシミュレーションしています。本校の存続や2学級の維持を考えると、1学年の生徒数が60人を越えなければなりません。全校では180人を超えることを目標に、町内の生徒を確保した上で、町外・県外からの生徒の募集を進めていく考えです。

生徒や保護者は希望する進学や就職に対応できる学力を付けてもらえるかが大切です。さらに本校の進路の実績を高めることや部活動の成績が魅力につながっていきます。

学力に関しては少人数授業や個別指導などに力を入れて



吉田 彰二さん

います。本校は40代の教師が多く、豊富な経験や実績を積んでいます。生徒たちにとっては恵まれた環境だと思っています。

部活動に関しては、テニスとハンドボールのコートが新設されました。本校に入学後はテニスをしたいと言っている中学生もいます。ハンドボールは正規の広いコートで練習できますので、今後、攻撃力などの力がついてくることが期待されます。また、OBの方々の協力を得て、指導体制を整えたところ です。

飯南高校が直面している課題は

町外・県外からの入学生を確保するためには、寮の定員がネックになります。町内の生徒数推移をみると、1学年の生徒数60人以上を維持するためには、さらに15人分程度の宿泊施設

が必要になります。その場合、舎監などの管理者の増員も必要になります。

町民や町に望むこと

ホストファミリー制度は県外生が地域文化を勉強することができ、特色ある教育環境づくりにもつながるので、町民の皆さんに協力していただきたいと思っています。県外生の卒業後の絆を保つためにも大切だと考えています。協力しながら交流を楽しみ絆を深めてもらうことを願っています。休日や閉寮期間などに寮生を受け入れてくださる家庭があればありがたいと思います。

現在の高校の体制をいつまでも維持するためには高校だけの努力では不可能です。若者の定住を図り、地元の子供を増やすことが本校の存続にかかわる重大事です。

飯南町の教育は「きめ細やかでぬくもりのある教育」です。この教育によって育った生徒たちが飯南高校の温かみのある校風をつないできました。地元の子が3割を切ると、校風を維持していく力が薄れ、培ってきた文化が失われることも考えられます。飯南DNAを守っていくためにも、生徒の半数は地元の子であることが望ましいと思います。

今月の表紙写真



以前はマイナースポーツであったハンドボールですが、今では飯南高校でも野球部と肩を並べる人気クラブで、学校の魅力の一つにもなっており、今年度も県大会で準優勝し、中国大会へ駒を進めました。伝統ある常勝への道は、OBや上級生の適切な指導や模擬試合の積み重ねの賜物なのです。新しい専用コートが備えられ、ますます練習のスキルが向上していくことは間違いありません。

編集後記

議会広報誌は、議会改革の一環として、議会の活動状況を広く住民に提供することのみならず、住民と議会の意思疎通を図る機能を果たすことが期待されています。

しかし、議会は、広報紙が現実にとどれ程の住民の方に読まれ、有効な情報源になっているのか知るすべを持ち合わせません。そこで重要になるのが議員一人ひとりの日常的な「広聴活動」であると思います。

住民と議員の良好な関係づくり、それにより議会への関心を高めてもらい、共により良い地域社会を作っていく機運を高めなければならぬと痛感しています。

議会広報編集委員会 熊谷 兼樹

